

(5×3)²とらいあんどる

2014年・SEP

登場人物

五味 かれん
重野 佳美
その妹・憫
弟・漢
風音 まこと
五味 たまよ（かれんの母）
ほか、ちよつとだけ、
カラスとか、
通行人とか出てくる

序

幕が上がると、そこは朝の街角。隅にはゴミ集積所があり、ゴミ袋が積まれている。やや離れて、一人の少女がほうきで道を掃いている。まことである。髪を染め、濃いめの化粧をしており、いささか場違いな印象。傍らには、彼女のものらしき、キャスター付きバッグ。その脇を、通勤、通学の人々が彼女には見向きもせずに通り過ぎる。たまにカラスとか通る。

♪「ゴミ出しのうた」

ゴミ出しはー みんなが嫌がるしごとー
だけどー 誰かがやらなきゃいけないねー
だから毎日 ちゃんとゴミを分けておこう
ゴミには種類があるよ（良く見て） 国立公園は（ヨセミテ）
可燃ゴミなら週三回 燃えないゴミは月二回
粗大ゴミは申込が必YO!
だから毎日 ちゃんとゴミを分けておこう

で、舞台にはまことと一羽のカラスが残る。そこへ、カラス2が登場。

カラス1 やあ、カラスくん、どこ行くんだい？
カラス2 そういう君は、カラスくんじゃないかー。最近景気はどうかー。
カラス1 いやあ、さっぱりだね。やっぱり消費税アップが響いてるからかー。
カラス2 せっかく円安になっても、企業が生産拠点を海外に移してるから、メリツトに乏しいかー。
カラス1 中東情勢は相変わらずに不安定で、原油価格も高止まりのままだかー。
カラス2 そんなことより何より、
カラス1 それもこれもみんな、
カラス1・2 「ぬし」のせいだかー！

カラスたち、足早に退場（カラスだけに「翔べ！」）。
五味たまよが、これまた急ぎ足で現れる。後を追って、娘のかれんが、でっかいビニール袋を引きずりながら登場。

かれん ちよつと！待ってよ！
たまよ あーもう行かなきゃ！あとよろしくね！
かれん よろしくって、これどうすんのよ!?
たまよ 今日ゴミの日だから、出しといて！まかした！
かれん そんなこと言われてもさ…。
たまよ ね、何…？

たまよ 「ゴミは捨てても捨てられるな」なんちやってー。

かれん それ、どーゆー意味…？

たまよ (笑う) 冗談よ。あと、ちゃんと朝ごはん食べるのよ。冷蔵庫に、何か入れ

といたから。じゃ、行ってくる！

かれん わかったから、やっつくからさ、その代わり、私の話も聞いてよ。

たまよ お母さん、今急いでるんだけど。

かれん (一枚の紙を取り出す) これ、学校から…。

たまよ あーごめん。そういう話なら、朝はやめて。昨日の夜にでも言えばいいのに。

かれん お母さん、夜帰ったらすぐ寝ちやうじやない！

たまよ だからって、今それどころじやないから、また今度聞く。じゃ！

かれん あ…！

それから、一つ忠告しておくけど、その集積所、「ぬし」が出るらしいから、あんたも気をつけるのよ。

かれん 「ぬし」…？てか、今そんな話してるんじゃない！

たまよ てなわけだから、頼んだわよ。しー、ゆー、ねくすと、もーにん！

かれん はあ!?

たまよ そこは、「行つてらっしゃい」でしょ！

かれん (持っていた紙を丸めて投げる) もう知らない！

1

たまよ、かれんを振り切つて慌ただしく走り去る。仕方なく、かれんは一人、ゴミ袋を引きずりながら、ゴミ集積所に運ぼうとして。

かれん たく、勝手なんだから。こつちの気も知らないで…。あれ？てか、やけに重いぞ。

まこと あー駄目だわこりや…。

それもそのはず、かれんが引きずるゴミ袋の端っこを、まことが押さえ、中をのぞきこんでいるからなのです。

かれん ちょっと、何してんのよ？あれ…？

まこと あのさ、これ、中身ぐちゃぐちゃなんですけどー。(袋から取り出しつつ) 金属は不燃、ペットボトルは資源だつーの。今日は可燃の日だぞ…。

かれん (慌てて隠す) 人ん家のゴミ勝手に見ないでよね！

まこと 見られたくないなら、ちゃんと口しばってこいっての。つーかー、まさかこ

れこのまんま出す気じやないよね？

かれん 何か文句でもある!?

まこと 大ありだね。そもそも分別がなつてないって言ってるの。困るんだよね、そ

ういうことしてもらつちや。たく、親の顔が見てーわ…。

かれん そんな知るわけないでしょ！今それどころじやないの！

まこと 待てよ、おい！

と、まことごとゴミ袋をひきずつてゆくかれん。

声(憫・漢) 今や！

かれんが集積所に袋を置こうとしたその時、空(壁の向こう)からでかい網が降つてきて、かれんとまことの頭上にかぶさる。

かれん・まこと ぎやああああ(とか、わーとか、とにかく悲鳴ね)！

憫 よっしゃ！

漢 捕まえたで！

佳美の声 もう逃がさへんで！憫、漢、しつかり押さえときや！

憫・漢 合点だ！

網にからまり、もがくかれんとまことの上に、更に憫・漢が覆いかぶさつてくる。

まこと 離せ！

憫 姉ちゃん、やっただえ！

漢 「めし」ゲットや！

佳美 でかした！「ぬし」だか何だか知らんけどな、ここで会ったが百年目や。そのツラ拝ましてもらうでえ！

ボンッ！と、積まれたゴミ袋の一つから手足が飛び出し立ち上がる。更に首。佳美である。

かれん え……？

憫 漢、そらちやうで。「めし」ちやうくて、「ぬし」やから。

漢 えー、そなん!? (ポケットから紙を取り出し見る) だつてこれ…！

憫 あんな、「め」と「ぬ」はよう似てるけど違う字なんよ。

まこと いいからそこどけての！

漢 せやつたんか…。姉ちゃんが、「めし」捕まえる言うから、てっきり今日はこ

馳走かと思つたわ。

佳美 この際、「めし」でも「ぬし」でもどっちでもええわ！さんざんうちの邪

魔しくさつてからに！二度とそないなナメた真似でけんよに、お仕置きやで！

と、かれんの顔をのぞきこみ。

かれん え…？し、重野さん…？
佳美 ご、五味さん…？ど、どうも、おはようございます…。

憫 姉ちゃん、どないしたん？
かれん いつまで人の上に乗っかってんのよ？いい加減降りなさいつての！
佳美 もう、ええわ…。

ちよいちよいと、何やら手で憫と漢に合図を送る佳美。それを見て、ようやく離れる憫と漢。やっとこさ綱から這い出るかれんとまこと。

かれん 重野さん、これは一体どういうことなの？

漢 何や、姉ちゃんの知り合いか？

佳美 こ、これはね…えっと…そ、そお、町内会のクリーン作戦で、マスコットキャラクターを頼まれちゃって、名前は、「ゴミふくろう」。(踊る) どうかしららん♪

憫・漢 そんなん初耳や！

かれん じゃ、じゃさ、この子たちは何よ？

佳美 キャンペーンに参加してる近所の子ですわ。さ、あなたたち、朝練はこのぐらいにしましょう。今日はもう帰っていいわよ。それじゃ、私はこれで。

憫 ちよ、ちよい待ち！何言うてんねん姉ちゃん！

漢 第一、うち、こつちやでー。

佳美 いやだわー、この子たち、何を言ってるのかしらね…？我が家は向こうに見える高級マンションで…。

まこと つーか、さつきからあなたのこと姉ちゃん姉ちゃんって言ってるじゃんよ。

な、五味？

かれん うん。えー！何で私の名前知ってるの？！

佳美 そ、それは、「近所の優しくキレイなお姉さん」という一般名詞としてのお姉さんに親しみと尊敬とガキ特有の馴れ馴れしさをこめた「姉ちゃん」であつて、断じて血のつながった兄弟を意味する「姉ちゃん」では…。てかあなた！動揺のあまり忘却の彼方にぶっとんでたけど、風音やろ！風音まこと！

まこと やつと気づいた？

かれん あー！たまにしか会わない上に茶パツで化粧とかしてるからわかんなかったけど、言われてみれば確かに、遅刻常習犯の風音！

まこと いやあ、ガッコじや滅多に会わないつてのに、こんなところで会うなんて奇遇だねえ。

佳美 そら、お前がサボるからやろが！じゃなくて、わ、私、昨日も風音さんのお宅を訪ねたんですよ。その、「家近いから、たまってるプリント届けてやれ」って先生に頼まれて…。

まこと あーわりい。てか、別に来なくていいつての。にしてもたまげたわ。あの重野が、その若さにしてすでに二人の子持ちとはねー…。
かれん え、そうなの？！

佳美 わしの子なわけがあるか、アホ！
まこと (憫と漢に) 君たち、重野の妹と弟、だよな？

憫 重野つて、あなた、姉ちゃんの知り合いか？

まこと そ。お姉さんの学校のともだち。私はまこと。あなたは？

憫 重野憫です！

漢 漢です！

憫・漢 (ランドセルからぬいぐるみを取り出しながら) そしてこの子が、ペットの「ぼとる」です！

かれん それ絶対なんか狙ってるよね？

佳美 ぬいぐるみやないかい！

と、佳美が憫と漢に突っ込みを入れた瞬間、ぱしゃつと小さくシャッターの音。まことがスマホで撮影したのである。

佳美 しもたー！つい反射的に突っ込んで来たあ！

まこと だからさ、もう素直に認めるつきやないよね。な、五味？

かれん あなたに五味って言われると、何か腹立つ。
まこと 証拠もあるし。この写真が目に入らぬかあ！にしても、ちよーウケるんだけど、これ。カメラはとらえた。重野佳美の知られざる真実。

佳美 よこさんかい！

まこと だめ。

佳美 何や、脅す気かいな？

かれん さては、言う事聞かないと、ネットに投稿したり、大量にプリントアウトして街中の電信柱という電信柱に張りまくるつもりなんだ！

佳美 い…？

まこと 別にそんな七面倒なことするつもりないけどさ、

かれん 意外とまともだ…。

まこと とりあえずちゃんと説明してもらおっかな。(綱を手にとる) これは、一体どういうこと？

かれん そ、そうそれそれ！どういうことなのか説明してもらわないと！

佳美 ご、ごめんなさい…！

2

まこととかれんの前に、佳美・憫・漢が正座している。佳美はすでにゴミ袋を脱いで、普通の制服姿に戻っている。

まこと いや、何もそこまでしてくれなくていいんだけど…。

佳美 勘違いとはいえ、さきほどは、失礼いたしました…！

かれん 勘違い？

佳美 つまり、それは、その…。

憫 「ぬし」が悪いんや。

まこと 「ぬし」がどうしたって？

かれん ね、そもそもその「ぬし」って一体何？

漢 「ぬし」はな、そのゴミ置き場をまもてんねん。

佳美 「ぬし」ちゃうくて、「ぬし」やから。

まこと 「ぬし」でも「ぬし」でもどつちでもいいけどさ、それがあんた達と何の関係があるわけ？

佳美 …邪魔なのよ、「ぬし」がいると、……のに。

まこと はあ？聞こえないんですけど。

佳美 せやから、「ぬし」がおると、ゴミもろくに拾われへんから、成敗したる思たつてゆうところが！そこは、察しろや！

かれん え…？

まこと こいつ、こんなキャラだったのか？

かれん いや、私の知ってる重野さんは、もつと真面目で、おしとやかな方、だったはず…。

まこと それが何、ここでゴミあさってるってことですかあ？

佳美 何か文句あるか！

漢 姉ちゃんをいじめんな！

憫 この「ぼとる」かてな、うちがペットが欲しいゆうたら、姉ちゃんが探してきてくれたんや。

漢 そんなだけやないで。うちにあるテレビも、炊飯器も、みんな姉ちゃんが拾ってきたんや。

かれん そ、そうなの!?でも確か重野さんのお宅って、

漢 うち、そのボロアパートやねん。

佳美 高級マンションでことにしとけ、ゆうところが！

憫 姉ちゃんいつも言うてた、「使えるうちはまだ「ゴミやない」。

漢 だから、「あそこは宝の山なんや」って。

佳美 それなのに、「ぬし」が出るようになってからは、すっかり片付いてしもうて…。

まこと 気持ちにはわからないでもないけどさ、ゴミを勝手に持ち去るのは、条例違反なんだよね！

かれん へえー、そうなんだ！

まこと そこでお前が感心するなつての。

漢 (五味家のゴミ袋をのぞいている) おおー。なんや、テレビでしかよう見たことないお菓子の箱があるで！

憫 ほんまやー。

漢 ええなあ。

かれん 勝手に見るなつて！

まこと だから、これに懲りてもうやめにしたら？

佳美 あんたに何がわかるねん!?

まこと それが社会のルールってもんだよ。

佳美 人の苦勞も知らんと、お前が偉そうにルール言うなあ！毎日毎日遅刻ばつつかしくて！学校にもようこんと、遊びほうけとるくせしてからに！学校の掃除かて出たことないやろが！

かれん た、確かに…。

佳美 いや、そこ、あんたも大して変わらへん。

まこと ……。

佳美 ほんなら、どつちが正しいか、ここは一つ民主的に多数決で決めよやないか！

かれん えー、この面子で多数決!?それって投票権は何歳から？

まこと (かばんからお菓子の袋を取り出しつつ) あげる。

憫 おおー！

漢 ええんか？

まこと 姉ちゃん、こいつ、案外いい奴やでー。

漢 だからね、もうゴミ拾ったりするのはやめなよ。

佳美 多数決で負けそうだからって食いもんで釣る気か？脅迫の次は買収かい。食

まこと えんやつちやな。

佳美 いいじゃん別に。

佳美 いや良くない！金で解決しようつてその根性が気に食わん！大体何やそのベタバタ化粧とかしくさつて。それにそのカバン！どーせ服とか化粧品とか詰め込んで、夜な夜な遊び歩いとるんやろ！家出か？だからいつ行つてもおらんのや。そやる!?凶星やろ？

まこと そんなんじやねーよ！

かれん ま、まーまー…。

佳美 私かて、別に好きでやつてるわけやあらへん！けどな、憫と漢の面倒みなあかんねん。こいつらにメシ食わすだけでいっばいっばいなんや。しゃあない

やろが！毎朝この子らに朝食食わして、学校行つて、家帰つたら掃除に洗濯、そんでまた憫と漢の晩ご飯…。それが終わつたら風呂。こいつらが寝付いてから、ようやく学校の宿題とかやつて気がついたら布団に入る間もなくもう朝…。そんな毎日やで。誰かが「もう要らん」ゆうて捨てたもんやないか。使えるもん探してありがたく使わせてもろてるだけや。どこが悪いねん!?

かれん あのー、一つ、素朴な疑問なんですけど…。

佳美 なんや、なんか文句あるんかい!?

かれん おっしやつてる事は何となくわかりましたけど、重野さん、普段はいつもそ

んなしやべり方なんですか？

佳美 別に隠すつもりなんかなかったんや。ただ、この喋りをからかわれたりする

んが嫌でな、とりあえず大人しくしとこ思て、なるべーく人前では口開かんようにしとつたんよ。したら、いつの間にかやら、「物静かな優等生」みたいに見られるようになってしめて、余計喋りづらくなつていったんよ。「イメージ先行の

悲劇」ってやつや。…けどまあ、今にして思えば、私の中に、ほんまはそうであらいたいという憧れみたいなのがあつたんかもな……。

まこと ペットボトルは洗ってつぶすのが基本だ。(漢に) 思いっきり踏んでみ。

漢 えいつ!

まこと おー、やりやできるじゃないか。

佳美 て、人の話まじめに聞いとんのかお前ら!?

まこと だけど、一般ゴミと一緒に出すのは反則だよ。ゴミには色々種類があるんだ。

漢 へえ、そなんや。

まこと ま、どっちでもいいけどね。だから、いんじやないの、重野は重野で。

かれん 重野さんも、苦勞してるんだね。全然知らなかった……。

佳美 当たり前や!

かれん えらい!

まこと は……?

かれん そりや、私には兄弟とかいらないからあれだけさ、家も親が忙しくてめったにいないから、その、一人で苦勞してる感、私にも何となくわかるよ。私、重野さんのこと誤解してた! 何つーか、もつとつつきにくい人かと思つてた! その若さで小さい子供二人の面倒見てるなんて、なかなかできるこつちやない!

佳美 おだてても何もでえへんで。

かれん 重野さん、いろいろ大変だと思つけど、これからも頑張つて。私、応援してるから!

佳美 いや、応援するだけならタダやから、そういうのは別に……。

まこと (佳美に) こいつ、こんな単純バカなのか?

かれん それに引き替え風音、あんたつて奴は……!?

まこと え、私、ですか……?

かれん 大体、週3、いや4から5だったかな、とにかく週半分以上のペースで遅刻する。宿題は出さない。掃除もでない。ふらつといなくなる。重野さんの苦勞も知らないで、偉そうに説教なんて、百万年早いつての!

まこと 元はと言えば、お前らがルール破るから……!

かれん ルール言うなら自分が守れ!

漢 あれえ?

佳美 どないしたんや漢?

漢 そういえば、憫姉、どこ行つたんやるか?

佳美・かれん・まこと えー!?

気がつくつと、いつの間にか憫の姿が消えている。

漢 憫姉、どこや? おらんのかー?

かれん ど、どうしよどうしよ?

佳美 あかん! あいつ、ああ見えて心はガラスのように繊細やねん、びんだけに。

かれん 今そんなこと言つてる場合なの!?

まこと (キャリーバッグを手を駆け出す) とにかく、手分けして探すつきやないだろ。

佳美 この際そんなカバン、どうでもええやろ! 漢、行くで。離れんときや。

3

一同、走り去る。

憫が一人、とぼとぼと現れ、ゴミ袋たちの脇に座りこむ。そこへ、カラス1・2が登場。

カラス1 もしかして、誰もいないんじゃないですかー?

カラス2 今日は「ぬし」もお休みですかー。

カラス1 (かれんが投げ捨てたプリントを拾いあげる) お、何やこれ? ち、ただの紙かー。

カラス2 こつちには袋があるぞ。おあつらえ向きにあげつばじゃないですかー。

カラス1 どれどれ?

カラス2 (カラス1・2 逃げろー!)

作業服を着て、帽子にマスクといういでたちのたまよがモップを振り回しながら駆け込んでくる。慌てて逃げ去るカラスたち。

たまよ やだこれ、家のじゃない! かれんの奴、一体どこで何やつてんだか……! (紙を拾いあげる) あら……?

そこに憫の姿を認めるたまよ。

たまよ お嬢ちゃん、そんな所で何してるの……?

憫 あんた、もしかして「ぬし」かいな?

たまよ やーねー! 「ぬし」とかそんなんじゃないわよ。

憫 でも、カラス追い払つてたやんか。

たまよ それは、たまたまと言うか巡り合わせというか、動物嫌いというか。お嬢ちゃんこそどうしたの? お母さん、一緒じゃないの?

憫 母ちゃんなんておらん。姉ちゃんならおるけど……。

たまよ じゃあ、お姉さんはどうしたの?

憫 (ぬいぐるみを見たまよの眼前に示す)

たまよ 「ぼとる」。

憫 は?

憫 ペットの「ぼとる」や。これな、姉ちゃんが捨ててきてくれたんやけど、人が捨てたもん、勝手に拾たらあかんらしいねん。うち、そんな知らんかったん。たまよ そ、そうなんだ…。

憫 だからうちが持つとつたらいかんのや、返さなあかんねん、「ぬし」に。「ぬし」は、この守り神なんやろ。せやったら、ずつと「ぼとる」守ってくれるやろか…？

たまよ ど、どうかなあ…。

憫 うちのせいや。うちがペットなんて身の丈に合わんもん欲しがるから、そんなやから、いつも姉ちゃん一人苦勞して…。うちも、「ぼとる」と一緒にいなくなつたほが姉ちゃん喜ぶんちやうやろか…？

たまよ あなたがいなくなつたら、お姉さん悲しむに決まつてるじゃない。憫 せやろか…？

と、そこへ、漢と佳美が駆け込んでくる。

佳美 待て待て待て！その怪しいやつ！

漢 姉ちゃん、あそこ！憫姉もおるで！

佳美 さてはお前が「ぬし」かいな！憫を返さんかい！

たまよ え……？

やや遅れて、まこととかれんが現れる。

まこと あんた誰よ？

憫 姉ちゃん、違うねん！

佳美 よう来た。こいつが「ぬし」や。逃がすんやないで！

かれん 「ぬし」って、ほんとにいたんだ。

たまよ (なるべく変な声を出せ)ち、違いますよ。私は、ただの通りすがりの清掃業者で。

まこと そんな怪しい清掃業者がいるかっての。とつ捕まえて、警察に突き出してやろうか。

カバンの中から、ビニール紐とかガムテープとかいろいろ引つ張り出すまこと。

佳美 なんや、えろう準備ええやんか。よっしや、わしにもなんか寄越せや！

たまよ だから、それは誤解だつて…！

憫 姉ちゃん、待ってえな！

憫が止めるのも聞かず、たまよをぐるぐる縛りあげる佳美とまこと。それに漢。

まこと 一丁あがりつと。

佳美 怪我はないか？すまん憫、わしが甲斐性ないばかりに、お前に迷惑ばつかりかけて。

憫 だからあ…。

たまよ 違うつて言うてるでしようが！

憫 (同時に) 違うつて言うところが！

佳美 え…？

憫 この人はな、うちのこと心配して、助けてくれたんよ。

かれん お、お母さん…！

たまよ あんたね、いくら顔隠してるとはいえ、気づくの遅すぎ。

佳美 「ぬし」違うんかいな…？

まこと 五味の、母親…？

たまよ わかつたなら、これ何とかしてちょうだい。

かれん あ、ごめん！

佳美 そら、勘違いとは言え、えろうすんまへんな。

漢 姉ちゃん、今日は頭下げてばつかりや。

佳美 (ごっつん) やかましい！人が真面目に心配しとんのに！許せや憫、姉ちゃんの考えが甘かつた。お前にこれ以上惨めな思いなんかさせとやない。明日からは働くで！姉ちゃんバイトでも何でもして、お前にちゃんとしたペット買うた

るさかいに。

憫 ほなら、「ぼとる」はどうなるん？

たまよ いくら拾い物だからつて、今はその子の物でしょ。それでいいんじゃないの？

まこと そら、まあ、持ち去る現場見たわけじゃないし、昔のことだし…。

憫 ほんまにええのんか!?

まこと (憫を見て) さすがにその子見てたら、これ以上言えないわー。

かれん (紐をほどきながら) でもお母さん、仕事はどうしたの？それにその格好は？

たまよ あんたこそ一体何やつてるのよ？「かれんさんがまだ登校してませんけどご

病気でつか？」って、学校から電話かかってきて、それで仕事放り出して慌てて戻つてみれば何なのこれ？あーもう早くほどきささいよ！

かれん お母さんの仕事つて、超高層ビルの最上階で下々の者を見下ろす優雅な仕事つて、あーこれじれつたいなもう！

まこと (カバンからはさみを取り出しつつ) 切っちゃった方が早くね？

かれん あ、ありがと…。

まこと けど、いい大人がぐちゃぐちゃのゴミほつたらかして仕事つて何だよそれ!?

たまよ それは面目ないと申しますか何と申しますか…。

かれん お母さん忙しいんだからしょうがないでしょ！

まこと 聞けばあんただつて掃除屋のはしくれらしいじゃないの。それが自分ちのゴミ

はいいい加減でどういう事だよ？恥ずかしくないのか？あんたがそんなだから、アホな娘が育つんだろ！

佳美 ちよい落ち着けや。何「ぬし」みたいなこと言うてんねん!?て、お前のそのカバン、中どないなつとん？服とか遊び道具とか入つとるんちゃうんかいな。

まこと それ、それは、七つ道具でか…。

かれん あやしい。

佳美 憫・漢、ちよつとそいつ押さえとき。

憫・漢 はい！

まこと 人の荷物勝手に見るなって！

かれん あんただってうちのゴミ見たでしょ！

まこと それは、ちゃんと分別してないゴミ出そうとするからそうなるのであって、私のは純然たる私物で…。

憫と漢がまことを捕まえている間に、まことのバッグの中身を見るかれんと佳美。中には、ビニール紐の他に、軍手、定規（三十センチ）、ゴミ袋、ほうき、ちりとり、CD（鳥よけ）など。

佳美 これ、一体何に使うねん？

まこと 三十センチ以上は粗大ゴミ扱いになるから、確認のため…。

かれん あんた、いつもそんなことやつてんの!?

まこと なんか、落ち着くんだよねー、ここにいと。友達とかいないし、授業はちんぷんかんぷんだし、毎日学校行く意味とかイマイチよくわかんなくてさ、自己満足かも知れないけど、ここがきれいだと、みんな笑顔で通るんだよ。そういうのって、なんか楽しくね？

佳美 それが何でそんな派手なカツコしとんねん？

まこと たまに変な親父とかいてさ、ナメられないようにて思ってやってみたら、結構効果あったりして。…今はこんなことしかできないけどさ、いずれは清掃ボランティアとかそっちの方向に進みたくて、まあ中学は卒業できるようにしても、今のままじゃ進学なんてムリじゃん。けど、いずれは大検とかとって、「ゴミ分別士」の資格くらいは取りたいな。それでNPOでも立ち上げて、ネットで評判になって、ゴミ分別界のカリスマと言われるようになって…。

佳美 もうええ、勝手な妄想はそんぐらいにしとき。

かれん すごーい！風音さんが、そんなちゃんと将来のことまで考えてたなんて、私、全然見損なってた！

佳美 そんだけ見通し持って生きとんなら、ちゃんと学校来いや！ゴミ置き場の掃除ができて学校の掃除ができたことないやろ！その方が、…おもしろいやんか。それに…、今からかて、まだ間に合うかもしれないやろ。

まこと 考えとく。その時は、重野も素で来なよー。その方が、おもしろい…。

佳美 あほんだら！その前にお前は髪黒くしてすつびんにせんかい！

かれん …重野さんも、風音さんも、ちゃんと将来のこととか、家族のこととか真剣に考えて日々生きてるんだ。それなのに私は、ゴミ出しの仕方一つわかってなくて、こんなんでいいのかな…？

まこと 結局、お前はどうしたいんだよ？

かれん 私は…。（慌ててゴミ袋を探る）あれ、どこやったっけ？確か…。

佳美 何しとんねん？

たまよ あー、お話の途中で恐縮なんですけど、こつちも途中なんですよね…。

まこと あーわりいわりい。

佳美 たく、誰やこんながんじがらめにしたんは？

まこと あんただあんた。

かれん お母さん…、お母さんあのね、私…！

たまよ あーわかった。皆まで言うな（プリントを取り出す）

かれん あー、それもしかして…!?

たまよ あ、ちよつとごめん！（懐から携帯を取り出す）はい五味です！はい？今どこ？何言ってるんですかー、ちゃんと来てますって。え、今そこにいる？申し訳ありません！大丈夫ですって！ちゃんど時間内には終わらせませすからって、はい、すぐ行きます…！あ、迷惑ついでにもう一つお願いが…実は今度、娘の学校の文化祭が…、お願いしますよ、埋め合わせは他でやりますから、そこを何とか…今回だけでいいんで…。

ここかれんのみ明るく。

かれん

お母さんの仕事は、きつと、私が思っていたようなものじゃなかったんだと思う。ありがちな光景かもしれない。お母さんは、目の前にはいない、たぶん会社のお偉いさんに向かってぺこぺこ頭を下げていた。私のために…。だから、私には恥ずかしいとか、みつともないとか思えなかった。ゴミにもいろいろ種類がある。生き方は人それぞれだ。今の私には、重野さんや風音さんのような明確なビジョンはない。将来どうしたいかなんてまだわからない。考えても考えても、分別されないうちのゴミ袋のように、私の頭の中もぐちゃぐちゃだ。けど、これだけははっきりと言える。ケンカもよくするけど、ろくに顔も合わせない日もあるけど、それでも私にはお母さんがいる。今はそれでいい。

照明ふつーに戻る。

たまよ はい！はいはい！ダッシュで戻りまーす！じゃ！

かれん お母さん、ありがとう！

たまよ 何言ってるんだか。じゃ、お母さんもう行くわ。

かれん これからは、ゴミ出しは私がやるからさ。

たまよ できるわけないでしょ。私がたたき起こさなきゃ遅刻ぎりぎりまで寝てるくせに。

かれん できるもん。その代わり、ちゃんと分けて捨てるように！おかげで酷い目に遭ったんだよ！

たまよ それはお互い様でしょ！

まこと どつちもどつちだつーの。

佳美 「カエルの子はカエル」やな。

たぶんこの辺から曲かなあ。

たまよ (佳美とまことに) あなたたち、かれんの学校のお友達？

まこと いやー、友達つつーかなんつつーか…。

佳美 なわけがあるかい！

たまよ これからも、かれんをよろしくね。

かれん お母さん、この二人はね、そんなんじゃないよ…。

佳美 よろしくだなんて、そんな…。こちらこそよろしくお願いします。

まこと キモいからその喋り方やめろって。

佳美 何だところら!?

かれん まあまあ。

たまよ あーもう行かなきゃ！じゃ、また！今度うち遊びいらっしやい！たぶん私

ないけどねー。

たまよ、走り去る。

かれん 行つてらっしやーい！仕事がんばつてね！

佳美 憫、漠、ほな、わしらも帰るか。

かれん うん、じゃあまた明日学校でね。

まこと ちよつと待て。その前に五味は、これを何とかしろ。

かれん あー忘れてたあ！

憫 じゃあうちも手伝う。

佳美 じゃあないな。

たまよが再び駆け込んでくる。

たまよ 「また明日」とか、言ってる場合!?まだ全然朝じゃないの！いいから今すぐ

学校行け！

かれん はい！

ゴミ袋を片付け慌てて走り出すかれん、佳美、まこと。佳美の後を追う憫と漠。次第に暗転。

暗転後、役者は整理します。したら明るく。一同の礼とともに、

幕

ENDING THEME

私に捧げる

詞・曲 せきやうや 十の十 新

かしの木に 咲きわたる花びら

なつかしい 思い出の場所

お願ひ 夜は静か

新しいこと 始まりのページ

つぎは 夢の扉

最後は 静寂の赤い糸

私の心は ずっと

///

人は 何かを掴んだら

別れの涙を拭き 涙が

新しい一歩を踏み出す

かしの木 咲きわたる花びら

私の眼は 新緑の大地

私に捧げる

///